

一 裁きと否定について

1. 自己混合意識

「相手の立場になって考える」という古い学習体系を止めて、「自分が言われて嫌な事は言わない」あるいは「しない」に徹底しましょう。「自分なら・・・」と置き換えた時点で相手の領域を侵略しています。今までは「みんな仲良くしよう」という目標の時代でしたが「仲良くしようと欲していない相手とは仲良くしなくて良い」という原則があります。人をあてにする・頼る・期待するというのは依存心の象徴です。結局自分で判断し自分で最終決断を下すのですから、まわりの人の存在は自己分析・自己修正・再確認のための良き対象となるべきものです。歴史上、人の事を心配することは良き事とされてきましたが、自分の不安を他人とすりかえているのであって、根底には未来に対して「ダメになるかもしれない」ということを前提としているだけです。注意をしてあげるのは自然体が望ましく、「聞く姿勢のない人には自分の意見を強要してはならない」という原則もあります。「正しさ」を他人に求める習慣が一番根強く存在していますが、自分より他人を正すように力を入れる方が簡単であり、みんな正しくあれば良いという思い込みです。善悪を超えた善、魂から発散される神心と認識を気が付いた人から順にひとりひとり実践して行くしかありません。

2. 何でもありの体験学習

現在地球は宇宙の縮図形態が96.164%となっています。動植物は99.9%他の惑星からの寄せ集めであり、地球を中心に取り巻く太陽系霊団約600億人のうち92%が他の恒星・惑星からの移民です。そして宇宙には約900通りの法則があり、地球にはそのうち約600通りが組み込まれています。創造主意識からどの位離れて生きて行けるかという体験学習も終焉を迎えつつありますので、修正すべき問題点・不調和が一度に明らかになって来ていますが、あくまでも「存在を許されていないものは存在しない。許されていない事は現象化しない。決定的な破壊はない。」という大なる愛と調和のもとでの出来事です。何でもやってみないと解らないということは宇宙全体の共通事項です。たとえ救世主であっても破壊王であっても、してみたいからやってみるという事には変わりはありません。そしてそこには何の価値もないのが本来の姿です。

3. カルマの法則の作用

「自分が出したものは全て返ってくる」「自分が存在を認識したものは全て目の前で現象化し体験する事になる」というのも宇宙内共通の法則です。それは言動はもちろん、考える事・想像する事も含まれます。相手が受け止めた場合も気が付かない場合も同様となり、右から出したものは左から、前から出したものは後ろからという方向で形を変えて返って来ます。また、理解や協力をしてもらえないのはしてあげていないからです。幻想や妄想は五感体験ではなく七感体験となります。魂の中には宇宙創生約180億年間の記憶が全て刻まれています。その間に習慣化した性質を基本人格に持ち、積み重ねてきた調和・不調和も全て今この瞬間に織り成して存在していますので今気が付けばすぐに全てを消化することができます。過去に迷惑をかけた人々に対しては地上に体を持っているだけでエネルギーが自分から他者へ流れて行く仕組みがあり、生活をしているだけでつぐない行となります。家系と先祖の遺伝子の伝達は60%~80%を有します。共通点を持った個人の集まりであり生存者が改革の代表となります。しかし、それぞれが個々の責任において独立した立場ですから、遺伝やご先祖の責任ということはありません。

4. 自分自身を観察する習慣

「自分発見の旅」とは、最終目標の創造主との完全なる一体化を目指しています。旅の途中では「全て」を体験しなければなりません。そして創造主と同等の魂として「あらゆるもの」を創造し自分とは何なのかを見つけ出して行きます。ところが、宇宙から見た45億年の地球の歴史では地上に身体を持ちながら何か新しいものを創造した人は誰一人としていません。「すでにあるもの」と時間を超え、空間を超えて繋がっているだけです。他次元のそれぞれの世界や意識界に存在するものを取り入れて応用しているのです。物質現象界は高次元から順に凝縮された世界であり、先に創ってあるものを後から体験する様式となっています。自分自身が一人の人間生命体として何処に繋がりを採用していくのか？自分自身の中に永遠の愛と調和と安心感をどうやって築くのか？本気で探究する必要があります。矛盾したものは全て魂の本能が違和感や感情として教えてくれるので、微妙な変化に注意深くなることです。また「私はどういう状態の時にどう反応しているのか」「どういう決め事を持って何を定義としているのか」「何を認めて何を否定しているのか」など38,000通りの変化の中から自分はどのような変換器なのかを分析し、浄化する作業も必要条件となります。思うようにならない人生はありません。冷静に細分化して観察すると全てが思った通りになっています。目先の事にこだわらないようにするには、常に落ち着き大きな視野(無限の拡がりの全体)から今を見て、原因と結果を明確にすることです。

5. 自分の考えが間違っていると認める勇氣

人間はみんな自分が正しくなければ生きて行けません。「すべてが間違っている」かもしれない自分に一度は絶望して下さい。「何も知らない自分・解ったつもりになっている自分」に失望し啞然として無力を感じてみて下さい。「世の中でたったひとりぼちな自分」の孤独に埋もれて悲しんで下さい。「死ぬか生きるかそれが問題だ」という気持ちになってみて下さい。全てをじっくり味わって、腑に落として体験済みとするのです。第3チャクラから第2チャクラ(丹